

本年度の研究について

- 1 全校研究テーマ：「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」
～社会に開かれた教育課程をめざして～

- 2 全校研究テーマ 設定の理由

○これまでの研究について

本校では、平成27年度より「児童生徒の特性とニーズに応じた教育」を全校テーマとして2年間の研究に取り組んだ。そこでは、各研究部会で全校テーマの追求に適している授業を研究対象にし、教師がより意欲的に研究活動に取り組むことができるよう、各研究部会で研究の方法を工夫して取り組んできた。このことにより、成果として児童生徒一人一人に視点を当て、ニーズを把握し、個々に応じた指導目標や授業内容を検討・実施することができた。

○本校の現状と課題について

今年度、本校は栄特別支援学校との分離により、170名規模の学校となった。昨年度までは、過密状況で教室不足となり、様々な学習活動に制約を受けてきた。児童生徒の減少により学習環境が大幅に改善された。一方で、学習集団や指導形態の変更が求められることもあり、これらのことから教育活動の見直しが必要であると考えられる。

○学習指導要領の改訂に向けて

平成30年度より、新学習指導要領が随時、全面実施となる。現行の学習指導要領からの変更点や追加点等について職員間で研修に励み、日々の授業実践に反映していくことが必要となる。特に改訂のポイントの一つである「社会に開かれた教育課程」の実現が今後の特別支援学校に求められてくる。

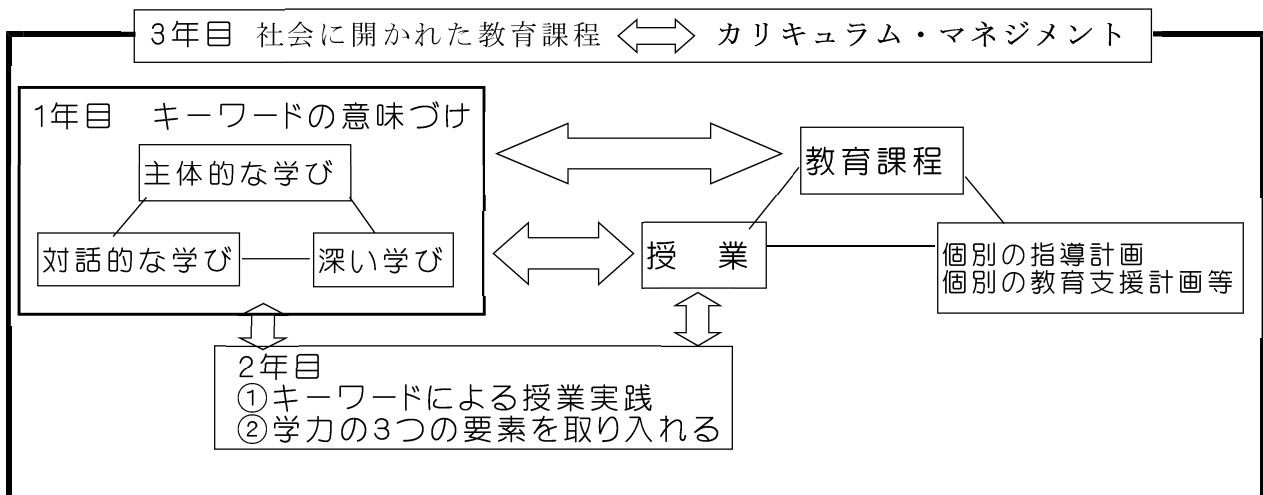
以上のことから、本校の現状と課題を踏まえ、教育活動の見直しを「主体的・対話的で深い学び」に視点を当て、「社会に開かれた教育課程」をめざしていくために、本テーマを設定した。

- 3 研究目的

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。
(2) 授業改善から「社会に開かれた教育課程」の編成をする。

- 4 研究方法

- (1) 研究期間は3年間とする。
(2) 3年間の研究計画



年	研 究 内 容
1 年 目	【「主体的・対話的で深い学び」の意味づけをする】 ・次期学習指導要領について研修機会を設ける。 ・全校テーマを受けて、各研究部会ごとに「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」とはどのようなことなのかを検討する。 ・研究対象の授業を各研究部会で決める。 ・「主体的・対話的で深い学び」の意味づけをする。
2 年 目	【①キーワードによる授業実践 ②学力の3つの要素を取り入れる】 ・前年度に意味づけした主体的・対話的で深い学びの視点で授業を実践し改善する。 ・学習評価の方法を学力の3つの要素で整理し、授業実践に取り組む。 ・主体的・対話的で深い学びの視点や学力の3つの要素等から教育課程の検討をする。
3 年 目	【社会に開かれた教育課程を編成する】 ・2年間の研究成果と課題を踏まえ、授業実践に取り組む。 ・主体的・対話的で深い学びの視点や学力の3つの要素等から教育課程の見直しをし、「社会に開かれた教育課程」を編成する。

(3) 今年度の研究計画

月 日 (曜日)	研 究 内 容
6 月 13 日 (火)	・研究推進委員会
6 月 21 日 (水)	○全校研究会① ・次期学習指導要領の現時点での概要説明 ・本年度の全校研究テーマについて提案
7 月～8 月	・次期学習指導要領についての研修会
9 月 6 日 (水)	○全校研究会② ・次期学習指導要領（主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善）についての研修会 【講師：本校校長 保科靖宏先生】
10 月～1 月	・各学部で「主体的・対話的で深い学び」の意味づけをしていく。 ・研究係会を適宜設け、各学部の進捗状況を報告し共通理解を図る。 ・研究対象の授業を各研究部会で決める。
11 月 2 日 (木)	○全校研究会③ ・授業研究会（小学部重複学級 授業者：青柳耕平・鈴木百合子） ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について ・学力の3つの要素について 【講師：小倉京子先生】
1 月～2 月	・まとめと実践報告集の原稿作成
2 月下旬	・原稿締切
3 月初旬	・印刷・製本・配布
3 月初旬	・研究推進委員会 ○全校研究会④ ・本年度のまとめと次年度の研究について

5 研究組織

〈研究推進委員会〉

校長、教頭、事務長、教務主任、副教務、部主事、研究主任、研究副主任

〈研究係会〉

各学部会の研究係

〈研究部会〉

小学部研究部会、中学部研究部会、高等部研究部会、AC学級研究部会

6 研究会講師

- ・全体講師：小倉京子先生（千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事）